

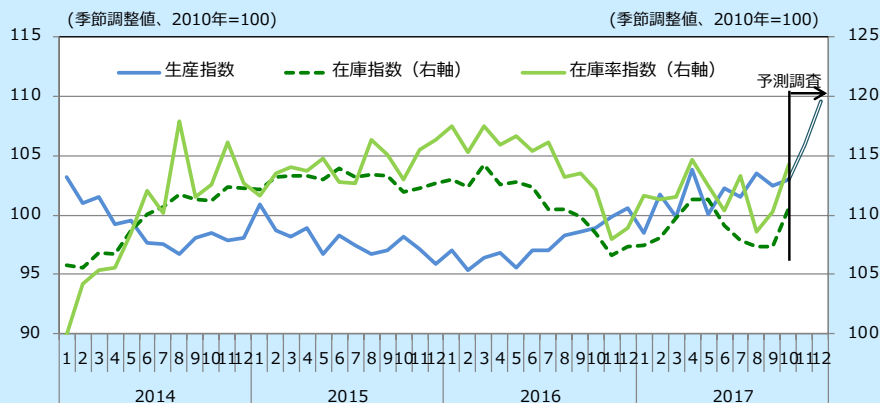
日本：鉱工業生産指数（2017年10月）

—生産は緩やかな回復基調を維持—

MRI Daily Economic Points

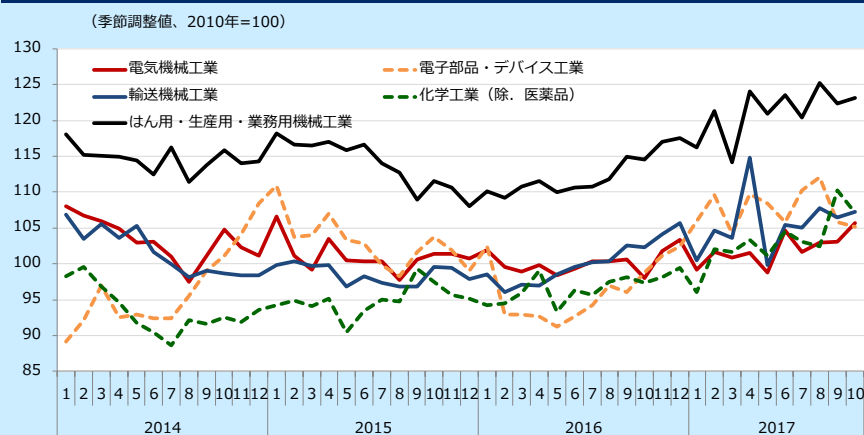
November 30, 2017

図表 鉱工業生産／在庫指数



出所：経済産業省「鉱工業指数」

図表 上昇・低下への寄与が大きい業種の生産指数



出所：経済産業省「鉱工業指数」

評価ポイント

2017年10月の結果

- 17年10月の鉱工業生産指数(季調済)は前月比+0.5%と2ヶ月ぶりの上昇となった。予測調査による10月の生産計画(前月比+4.7%)と比較すると大幅な下方修正となったが、均してみると緩やかな回復傾向は維持されている。
- 業種別にみると、全15業種のうち8業種が前月比で上昇。電気機械工業(前月比+2.5%)、はん用・生産用・業務用機械工業(同+0.7%)、輸送機械工業(同+0.7%)等が上昇に寄与した。大手自動車メーカーの検査時の不正問題については、大きな影響はなかったとみられる。
- 一方、低下したのは6業種で、化学工業(除、医薬品)(前月比▲2.9%)、電子部品・デバイス工業(同▲0.6%)等が低下した。前者は前月の大幅な上昇の反動とみられる。後者については、前月に引き続き半導体関連の生産が減少した。
- 在庫指数は17年5月以降低下基調にあったが、10月は前月比+3.1%と上昇した。化学工業(除、医薬品)、輸送機械工業等で上昇している。今後、在庫の積みあがり状況に注意する必要がある。
- 製造工業生産予測調査によると、11月の生産は前月比+2.8%と上昇する見込みだが、経済産業省による補正値は▲0.1%程度となっており、下振れる可能性が高いと考えられる。

基調判断と今後の流れ

- 生産は回復基調を維持している。
- 今後も、堅調な世界経済を背景とした輸出の回復や、雇用・所得環境や企業収益の改善に伴う内需の持ち直しにより、生産は緩やかに回復すると予測。ただし、半導体関連の生産にやや一服感もあり、今後、半導体市場における需給調整に注意する必要がある。また、相次ぐ大手製造業における不正事案の影響が、今後拡大していく可能性もリスク要因となろう。